

令和4年度学校運営連絡協議会実施報告

1 組織

- (1) 都立若葉総合高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長 主幹教諭(教育情報部)=事務局長、教務部副主任 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主任教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主幹教諭(教育情報部担当) 計7名
- (4) 協議委員の構成
- 地域学識経験者1名・・・和光大学副学長（評価委員）
 - 地域教育委員会関係者1名・・・稲城市教育委員会教育指導担当部長
 - 地域中学校関係者1名・・・稲城市立稲城第二中学校長
 - 地域自治会代表1名・・・稲城市坂浜自治会会長
 - 地域機関・・・・・・・・・・多摩中央警察署生活安全課課長代理
 - 地域地区委員1名・・・・・・・・稲城市青少年育成平尾地区委員会委員（評価委員）
 - 保護者代表1名・・・・・・・・PTA会長
 - 同窓生代表1名・・・・・・・・同窓会長
- 計8名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
- 第1回 令和4年6月14日（木）内部委員7名、協議委員8名
（書面開催）
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
- 第2回 令和4年11月25日（金）内部委員7名、協議委員4名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
- 第3回 令和5年2月17日（金）内部委員7名、協議委員4名
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
- 第1回 令和4年6月14日（木）
書面開催
- 第2回 令和4年11月25日（金）内部委員8名、協議委員1名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
- 第3回 令和5年2月17日（金）内部委員7名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察、
今年度学校の取組に対する評価と整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

（1）学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

（2）アンケート調査の実施時期・対象・規模

・ 1 2 月 全校生徒	対象： 6 6 4 人	回収： 5 5 1 人	回収率： 8 3 %
・ 1 2 月 保護者全員	対象： 6 6 4 人	回収： 4 1 4 人	回収率： 6 2 %
・ 1 2 月 地域・住民	対象： 2 0 人	回収： 1 7 人	回収率： 8 5 %
・ 1 2 月 教職員	対象： 4 6 人	回収： 4 4 人	回収率： 9 6 %

（3）主な評価項目

学校満足度、学習指導、キャリア教育、生徒指導、保健管理、安全管理、教育環境、組織運営、保護者・地域との連携、ライフワークバランス

（4）評価結果の概要

学校評価アンケートの回収率が減少傾向にある。コロナ禍にあり保護者が来校する機会が少なくなったことに加えて、地域との連携も縮小されたため地域の対象数の分母を減らした。しかしながら地域住民の範囲を広げて、新規の地域住民を増やすことができた。

（5）評価結果の分析・考察

生徒の学校満足度は、1年次で85%、2年次で76%、3年次で90%であり、総合計で83%であった。保護者の96%であることから、保護者と生徒との乖離がみられた。

保護者から、教育目標について87%の理解が得られており、昨年度よりも上昇傾向を示した。その原因を明らかにすることが課題である。また教員は70%に留まっているため、学校の特色に応じた教育活動を浸透させ、次年度以降も生徒や保護者の期待に応えられる教育活動を継続的に行う必要がある。

設置されている選択科目について、各年次とも90%以上が肯定的なことは、生徒の興味関心に応じて選択している結果であり、総合学科の系列を意識して入学してきた生徒のニーズに応えられていると考えられる。授業については、丁寧な説明であるなど指導への感謝が述べられている反面、教員の授業の進め方、授業が分かりにくい、対応の仕方等に不満の声もあることは受け止め、補習等工夫することが必要である。生徒の授業満足度は、必修科目で88%、選択科目で88%、保護者も81%であり、概ね期待に応えられ、生徒の進路希望や興味関心と一致しているものと考えられる。学習への取組の肯定度合が、生徒の83%、保護者88%に対し、教員59%と受け止め方の差が大きい状況であることがわかり、自分のことを客観視できるような指導をする必要がある。

コロナ禍で教育活動の制約がある中、縮小等工夫して体育祭、文化祭を実施した結果、肯定的な度合いが増加した。生徒にとって、特別活動は学校生活を充実させるものであるもので、次年度から活性化を図る。

部活動については、活動の自粛や制限がある中実施されているが、生徒の満足度は75%であった。保護者は、参観の機会を増やしたため、肯定的な意見が増加した。

「産業社会と人間」「マイプロジェクト」を含めたキャリア教育について、生徒、保護者とも肯定的な評価を得た。地域からの評価も一定の水準を維持しており、キャリア教育の成果が一定程度評価されたものと考えられる。

生活指導において、90%超の生徒がルールを守っていると思い、また、ルールが適切と評価している保護者も80%超であった。また、地域からも高評価をいただいた反面、生活指導のルールが適切であると判断している教職員は75%弱と、生徒・保護者との開きが小さくなった。共通理解が促進されてきた

ものと考えられる。

教育相談について、「教職員に相談できると思う」生徒、保護者の肯定的な評価は昨年度とほぼ同じであるが、多いとは言えず、必要としている生徒が、相談しやすいような体制を維持して行く必要がある。

教育環境について生徒は 70%の肯定的な評価であった。次年度継続して計画的な教育環境を整備する。

地域の方から、本校の生徒がマナーを守っているという評価をいただいた。本校の窓口対応、電話対応については、90%超の肯定的意見から好意的と判断する。

いじめや体罰防止については、生徒、保護者と教員ともに高水準である。アンケート記載内容の聞き取り、生徒の状況把握と当事者の気持ちに寄り添うことに努め、安心して安全な学校生活が過ごせるよう、継続的に取り組む。

「積極的に情報発信が行われている」と考える保護者は 80%超であり、教員の割合も 82%まで上昇した。教員が積極的に情報発信したことが要因と考えることができる。地域の肯定的な評価が著しく増加したことは、一定の評価をいただいていると考える。今後も HP 掲載、スマスク端末、classi 等の活用による情報を継続していく。今年度は、稲城市防災訓練への生徒派遣も復活したが、地域の保育園での保育実習や、近隣小学校への生徒制作の絵本の貸出ができなかったので、来年度実施していく。

ワークライフバランスについては、生徒には馴染みがない項目で、教職員には否定的な意見が減少した、これからも継続して取り組んでいく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。
- ・近隣の小中学校、地域（自治体、消防、警察）が、本校の教育活動について関心があり協力的である。
- ・生徒の主体的な活動が学校を変えることにつながる。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・近隣の住民は、学校との連携を望んでいるので、地域のニーズに応えていく。
- ・地域の人材活用を一層推進するとともに地域のイベントにも参加していく。
- ・学校の施設の改善。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得ること。
- ・生活指導については、保護者との連携を強化し、節度ある行動を期待すること。
- ・学期ごとに校内研修会を実施し、教員の研鑽を図ること。

(2) 学習指導

- ・総合学科の特色あるカリキュラムの充実と基礎基本の定着を図ること。
- ・教員の授業工夫に対する否定的な意見については、授業改善が進むようにする必要があること。

(3) 特別活動

- ・部活動は、他校と比較すると活発とは言い難いので、一層の活性化を図り、生徒、保護者の満足度を高められるよう工夫すること。

(4) 生活指導

- ・登下校中のマナーについて問題ないと評価されているが継続して指導していくこと。
- ・挨拶指導の充実を図ること。

(5) 進路指導

- ・生徒が将来を見据えた中で、現実とのギャップを目の当たりにした葛藤が生じていることもあるが、「産業社会と人間」「マイプロ」の系統的な計画でキャリア教育の成果がでていると判断すること。

(6) 健康・安全

- ・教育相談の評価はおおむね良好であるが、四分の一のマイナス評価に目を向け、相談しやすい環境を整備していく。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
3	2		1			2

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果
実績なし

8 その他

- ・評価精度の向上のため、HPやスマスク端末を活用した情報発信、学校公開の機会を増やしていく。